

秋というか冬というか寒くなったり暖くなったり、幼い子供の頃とは秋の景色が変わってきたなと感じています。さて、今回は『あしががフラワーパーク』をご紹介しますと思います。

場所は栃木県の足利市にあります。都内から電車で2時間ちょっとかかりますので中々遠いです。距離にしておよそ100kmあります。キャッチコピーは『花と光の楽園』で、その名の通り、花と光という名のイルミネーションによる豪華な庭が見所です。また、全国6,012名の夜景観光士が選ぶイルミネーションアワードを7年連続で第1位を獲得という冠を持っています。入場前からハードルは高くなっているのですが、個人的にはそこまで期待していませんでした。

たまたまかもしれないですが、入場までの道のりでたいへん大勢の人が行き来しており、その人気ぶりが分かり期待値が上がっていききました。感想としては、想像以上の敷地の広さで、そして豪華鮮やかなイルミネーションに感動し続けるという、さすが王冠持っているなとつくづく感動させられました。

景色だけでなく、店員さんの対応やお食事処、お土産屋さんなどもとても良かったです。今回は夜に行きましたので、次は朝から天気が良い日を見つけてレポートしたいと思わせてくれたフラワーパークでした。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は愛知県西尾市の『三河工芸ガラス美術館』を紹介いたします。

抹茶で有名な西尾市ですが、今回紹介するのは1993年に開館した私設の美術館です。ガラス工芸家の神谷一彦(カズヒコ)さんが館長を努めています。もともとは機械設計派遣会社に勤めており、大手企業に派遣され工作機械、治工具、ポンプなどの設計の仕事をしていたようですが、退社してガラス工芸の仕事を始められたそうです。全くの素人から始めるのはすごいですね…。

館内には2000年にギネス記録に認定された巨大万華鏡『スフィア』が展示されています。もちろんカズヒコさん自身の作品も多数展示されています。

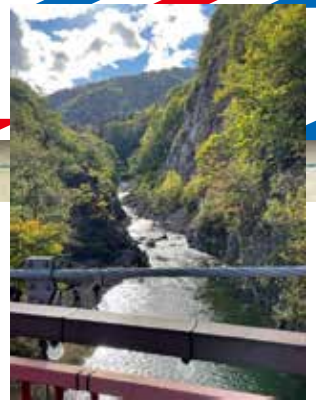
また『映画とてっぽう展示館』も併設されていてモデルガンなどの展示もされています(館長の趣味の範囲の広さが反映されていますね)。その他ガラス体験コースとして、サンドブラスト、ステンドグラス、万華鏡などの製作体験もできるようになっています。

まずは、ギネス登録の巨大万華鏡『スフィア』を見に行かれてはいかがでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



秋を感じるようになった北海道です。紅葉はどうだろうかと思いながら『定山渓温泉』へ出かけてみました。皆様は定山渓温泉が札幌市内に在る事をご存じでしたか?但し市内の端ギリギリのエリアですが、私が訪れた時期は少し早すぎたようで紅葉にはまだ10日程かかりそうな状況でした。そのため紅葉狩りではなく、温泉街の散歩へと変更となりました。市内でありながら川・山・温泉が揃っており、癒される場所です。

そして定山渓にはかっぱの伝説が語り継がれています。温泉街を流れている豊平川で釣りをしていた美少年が引き込まれるように川底に消えてしまいました。発見されることの無いまま1年が経ったある日、その少年が父親の夢に現れ、女河童に気に入られ結婚し、3人の子供と幸せに暮らしていると語ったそうです。それから青年が姿を消した淵を『かっぱ淵』と呼ぶようになり、かっぱの伝説となったそうです。

定山渓温泉は札幌市民に愛され、季節毎に出かけ自然と温泉を満喫し癒される場所となっています。もちろん観光客も多数訪れています。今回、私は二見橋や豊平川沿いなどをゆっくりと散歩をしながらリフレッシュした後、温泉に浸かり癒されて帰宅しました。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

大阪は2025年日本国際博覧会が近づいてきたことや、コロナ規制緩和もあり様々なイベントが始まりました。この近辺では『なにわ淀川花火大会』が有名で以前ご紹介しましたが、今回は『レッツゴー万博2025カウントダウン3夢洲超花火』と銘打って行われた花火大会をご紹介します。

花火の季節も終わり、実は当日まで全く気付かずに自宅でドーンドーンと言う花火の音がいつもより大きく聞こえ、あれっと思い、妻がネットで調べたらこのイベントでした。万博の開催地でもある夢洲での打ち上げで、国内最大の4万5千発。始まってすぐだったので行こうかとも思ったのですが、無料で観覧できる場所も無く、YouTubeでの同時配信があったのでそちらで見ました。

中々の迫力で途中、ドローン800機(これも国内最大級らしい!)による空中アートもあり、空に大きなクジラが動いたりフェニックスが飛んだり、日本伝統の歌舞伎の面が現れたり。万博公式キャラクター『ミyakumiyaku』の姿が浮かんだ時は、怪獣が空に浮かんでいる様な感じで面白いと思いました。次回ある時はチケットを買って現地で見たいと思いました。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

朝夕はめっきりと冷え込む毎日が続くようになりました。皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。体調を崩さないようお気を付けください。

さて、先月に続いてですが、今回も山を登って参りました。場所は北九州市門司の風師山(かざしやま)です。標高362mの低山で、登山初心者の私がチャレンジするにはうってつけの山です。駐車場に着いたら、スマートフォンのアプリで地図をダウンロードして登山開始です。

紅葉前でしたが、ちらほらと赤みがかかった風景を楽しみつつ、整備された登山道を登りながら思ったことが一つ。普段のウォーキングと登山とは、身体中の筋肉の使用箇所が違うということに気が付く新発見。もちろん運動量も全く違うので、時間が長くなれば長くなるほど使用する箇所が増えていくわけですが、意外に全身を使って歩いているものだと思います。

山頂目指して1時間20分、登頂後に見渡す大パノラマは「素晴らしい!!」の一言。『関門橋』から、宮本武蔵と佐々木小次郎の戦いの舞台『巖流島』、本州側から北九州側まで続く大パノラマは絶景でした。

山頂で景色を楽しみながら昼食を取り、秋を満喫できた登山でした…と終わればいいのですが、小鹿のように膝をがくがくと震わせながらの下山は大変でした。ダイエット頑張ります(泣)。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

先日、久しぶりにKJIの工場で地震の揺れを感じました。急いで事務所から外へ出たところ、私と同じように揺れを感じ、工場から出てきていた社員がいました。ですが揺れに気が付かずそのまま働いている社員もいました。

ニュースを調べたところ震源地は海の中ではなく、KJI工場から200kmほど離れた山間部でした。震源地の近くには『ブンチャック峠』というジャカルタ、西ジャワあたりの人々が観光地としてよく行く場所も含まれていました。

地震当日11月21日時点では死者が40人ほどと報道されていましたが、日に日に増え、今朝には死者272人、行方不明者272人(執筆時点)となっていました。地震の震度は約6。耐震性能のない建物が密集している地域だったこともあり、なんと約6万軒もの家屋が潰れたと報道されています。

KJI内には災害が発生した場合の避難経路や集合場所の印が貼ってあります。KJIの社員は火災が起きた際の消火訓練は何度も行っていますが、決められたルートを通して避難する訓練はしたことがありません。先日のような地震が再び起こらないように祈っていますが、万が一に備え、避難訓練を近いうちに行いたいと思います。また、今後は年に一回くらい行いたいと考えています。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

～10歳も違います～

男性60歳、女性は50歳。これ、中国での定年退職の年齢なんです。人口は日本の10倍以上、古くから共働き世帯の多い中国ですが、定年退職年齢は男女で10歳も違います。女性については管理職の場合は55歳など、補足条件も付きますが、これもどうやらこの先徐々に変わっていくようです。

KHEでも今年、50歳の定年を迎えた女性社員が2人いました。しかし、2人ともまだまだ元気、10年以上にわたりKHEの生産部門で頑張ってくれた人たちです。現在はパート勤務で引き続き頑張ってくれています。

現在の定年年齢は1950年代に制定されたもので、その後の経済発展、平均寿命の伸び、女性の社会進出、さらにはこの先確実に訪れる少子高齢化の波、年金財政への負担などを背景に、数年ごとに見直されることになっています。2045年までには男女ともに65歳で統一という長期目標も掲げられています。江蘇省も積極的に定年年齢の延長政策を推進する姿勢を見せています。

1950年代は60歳に満たなかった平均寿命が今では78歳です。中国での定年制度見直しも時代の流れですね。KHEの女性社員も若手からベテランまで、そして女性管理職もたくさんおり、皆頑張ってくれています。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

異常気象の影響なのでしょうか?ここカリフォルニアでは例年になく暑い日が続きました。それでも街中はハロウィンや収穫祭の時期には、カボチャの販売開始や飾り付けがされるなど秋の雰囲気に変わっていました。

さて、そのハロウィンですが、私も長年アメリカに滞在していますが、正直その起源や風習などあまり気にしてなかったので少し調べてみました。

ハロウィンは毎年10月31日に行われ、古代アイルランドに住んでいたケルト人が起源と考えられているお祭りです。カトリック教会の祝日の前夜に行われていました。現在のアメリカでは本来の宗教的な意味合いはほとんどなくなっており、カボチャをくりぬいて『ジャック・オー・ランタン』を作って飾ったり、子供たちが仮装してお菓子をもらったりする風習があります。

なぜ『仮装』なのかは難しい説明もあるようですが、簡単に言うと日本の

お盆に似ています。昔はこの日に先祖があの世界から帰ってくると信じられていました。そして先祖の霊以外にも一緒に怖いお化けや魔女もやって来るため、身を守るためお化けなどの格好をし、仲間だと思わせたことが仮装の始まりだとされています。今では習慣も変わり、魔女やお化け以外にも様々な仮装があります。

子供たちは近所を訪ねて「トリック・オア・トリート」と唱え、お菓子をもらいます。大人たちも家の飾り付けや、当日は仕事場でも仮装したり、夜は仮装パーティーを楽しんだりと色々な過ごし方があります。

アメリカではパンデミックの影響でこの2年間はハロウィンの行事は中止されていましたが、やっと今年からは元に戻り本当にHappyHalloween!となりました。

KCS(アメリカ)(COO: 板垣 仁志)

エスカレーターや動く歩道は、日常生活の中でありふれたものです。しかし、正しい立ち位置が右か左か、まだよく分かっていない方も多いのではないのでしょうか?国全体に良識を身につけてもらうために教育をすることは容易ではなく、これには多くの労力と時間がかかります。

ジャカルタ空港にある動く歩道は、立ち位置が絵で描かれており、非常に明確です。しかし、立ち位置がジグザグになっているのは不思議です。これは速いペースで歩きたい人がいた場合、人を追い越すことが難しくなってしまいます。ジグザグになっている理由はわかりませんが、一般的ではありません。車が右ハンドルの国では左側通行をするように、人も動く歩道の左側に立つべきだと私は思います。

これは間違った知識でしょうか?それとも利用者にジグザグに立つってもらうことには特別な理由があるのでしょうか?

KIO(シンガポール)(E.Wong)

今年は約48,000人から55,000人の亡命希望者がオランダに来ると予想されています。政府の予測によると、来年も亡命希望者数は多く、わずかに増加するかもしれないと言われています。オランダ統計局は、今年の9ヶ月間でオランダの人口が約191,000人増加したと報告しており、このニュースは話題になりました。なぜならすでに亡命者流入危機と住宅不足に苦しんでいる小さな国への更なる大量流入は、無視できるものではないからです。

最終的に何ヶ月もの交渉の末、11月8日に『亡命希望者への住居提供を地方自治体に義務付ける』という新しい亡命法に関する合意に達しました。ですがこの計画に対し自由民主国民党、通称『VVD』が反対を唱えています。

VVDは、新たに到着した亡命希望者が路上で眠ることのないよう、さらに別の多くのことを行う必要があると考えています。また現在の住宅不足を考慮し、亡命希望者が住宅提供を地方自治体に要求することに対しても消極的です。この法律は、難民の人道的な受け入れをより迅速かつ適切に行うための重要な要素となっていますが、地方自治体は亡命希望者へのシェルター提供を余儀なくされる可能性があります。

4月1日以降、亡命希望者受入中央機関(COA)が、治安地域からの亡命受入れの組織を引き継ぐことを検討しています。危機的状況だったため自治体が動いていましたが、本来であれば避難場所の手配は自治体の仕事ではありません。

私たちの小さな国は人口1,780万人でいっばいで、深刻な住宅不足に悩まされています。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)